

とっとり Autumn 2022 Now

巻頭
特集

創り、集う桃源郷へ

いなば西郷 工芸の郷

特集

未来へつなぎたい 豊かな恵み

◇持続可能な森林、目指す
「智頭の山人塾」



あーとの森 漆工芸 浅井 康宏 2

巻頭
特集 創り、集う桃源郷へ
いなば西郷 工芸の郷 4

TOTTORI おもしろ発見手帖 多様な命の宝庫 大山の生きもの 12

ここにこの人 Human Life 一般社団法人日本伝書鳩協会鳥取支部 三ツ國 章 13

開運おかげ詣で 因幡と伯耆の神社 籠津のリュウグンさん (琴浦町) 16

鳥取のうま味 海の幸あふれる井 17

特集 未来へつなぎたい豊かな恵み
持続可能な森林、目指す「智頭の山人塾」 18

VIVA! とっとりLIFE 輝くJUターン者たち 牧場経営 (伯耆町) 24

Voice・読者プレゼント・編集後記 26

□「カメラアイ」「きらり匠人」「企業紹介」は休みます。



●表紙イラスト●

池平 徹兵

いけひら・てっぺい

1978年福岡県生まれ。島根大学卒。東京オペラシティアートギャラリーprojectN、岡本太郎現代芸術賞展、VOCA展などに出演。原生林の森の中、落差40mの雨滝と、空に向かって手を掲げる少女。澄んだ空気と、澄んだ水と、澄んだ心に、秋の彩りを添えた。

「とっとりNOW」が毎月届く
「ふるさと来LOVEとっとり」
会員を募集中!

入会
年会費
無料



巻頭特集：のどかな田園風景が広がる「いなば西郷 工芸の郷」



特集：「智頭の山人塾」の野外観察会



《蒔絵螺鈿飾箱「軌跡」》
(幅31.4×高12.5×奥行12.0cm、2020年)
©T.MINAMOTO



あさい・やすひろ
1983年鳥取県生まれ。2004年、国立高岡短期大学漆工芸コース卒。05年から重要無形文化財保持者・室瀬和美に師事。日本伝統漆芸展文化庁長官賞、東日本伝統工芸展奨励賞ほか受賞。21年、作品集「情熱-Passion-」発刊。漆工史学会会員、日本文化財漆協会会員、日本工芸会正会員。



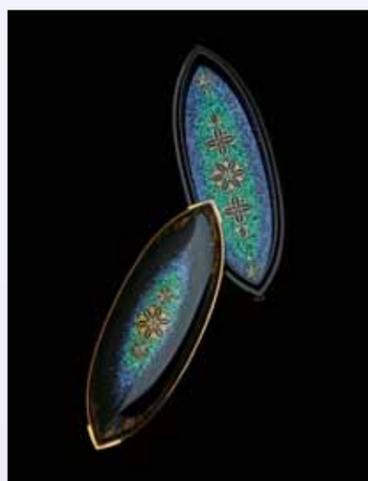
神秘的な「蒔絵」世界へ発信 漆工芸 浅井康宏

京都府太秦地区にある工房は、シンプルな墨色の外観、静謐なスタッフの仕事も凛として、まさに漆芸のイメージそのもの。浅井康宏さんは10代から「黒と光」に魅せられ、家族を説得して、鳥取にあった梨園を200本以上の漆林にした。一途な蒔絵の申し子、だ。

正倉院(奈良県)に名宝があるごとく、「蒔絵」「螺鈿」(※1)の歴史は古い。多種多様な技法を述べる紙数はないが、膨大な時間と労力を要するのは確かである。完成するのは年間数点。だが、浅井さんは厳しい環境にも負けず、「趣味が仕事、苦労が大変とは思わない」と断言。

5年がかりの《蒔絵螺鈿飾箱「軌跡」》は、立体造形と加飾の意匠を追求した工芸美の総合体となった。《蒔絵螺鈿舟形香合「海路」》はアワビの薄貝(※2)を50枚以上使い、天然の色に人間の作為を加えて微動だにしない。これらの神秘的な漆黒と輝きは、ミクロの宇宙へと誘ってくれよう。

伝統の名品に圧倒されがちだが、浅井さんはそれも「当時はモダンな仕事、だったはず」と、さらりと受け止め、自らは現代感覚を生かした夜の街や人物像にも挑む。壮大な漆芸史と限られた人生の中で、目指すのは蒔絵を世界へ発信すること。責任感のある、果敢な実行力が頼もしい。



《蒔絵螺鈿舟形香合「海路」》
(幅11.0×高2.1×奥行4.1cm、2014年)
©T.MINAMOTO

※1 蒔絵・螺鈿＝「蒔絵」は漆工芸の一技法。漆が乾かないうちに金銀粉や色粉を蒔いて文様を表現する。「螺鈿」は、真珠色を放つ貝殻の部分を切り出して薄い板状にしたものを、漆器などにはめ込む装飾技法
※2 薄貝＝螺鈿に使用する厚み0.1mm前後の貝の材料



文／角秋勝治 写真／田中良子



創り、集う 桃源郷へ

いなば西郷 工芸の郷

鳥取市中心街から南へ20kmほど進むと、
のどかな田園風景が広がる山里、鳥取市河原町西郷地区^{かわはらちようさいごう}へたどり着く。
まさに桃源郷のようなこの地は、昔から工芸を慈しむ風土がある。
その文化をさらに醸成し、新たに始まったのが「いなば西郷 工芸の郷」^{さと}の活動だ。
少しずつ、しかし着実に、地域に誇りとにぎわいを生み出している。

文／鳥飼 明子 写真／山田 真実



地元巡りで魅力を再発見できた企画

「いなば西郷工芸の郷」(以下、工芸の郷)は、陶芸・木工・ガラス工芸・皮工芸・銀工など、さまざまな分野の工芸作家が、その地域内で活動する拠点だ。そもそも、西郷地区には、住民によって2009年12月に発足した「いなば西郷むらづくり協議会」(以下、協議会)があり、地域の活性化を目指して環境整備、福祉や健康、伝統文化、歴史など多様な分野で取り組みを展開していた。その中の一つに、各集落を巡って魅力を再発見し、互いに「ジゲ我慢」をし合う「ぎやらりーあっちこっち」というユニークな企画があった。

なかなかなかったという。この企画で「改めて、他にはない西郷の魅力に気付いた」との声があがり、これが「工芸の郷」づくりへの足掛かりとなった。

大きな追い風で思い重なり始動

大きな追い風が吹いたのは2013年のこと。やなせ窯の前田昭博(まへたあきひろ)さんが重要無形文化財「白磁」の保持者(人間国宝)に認定されたのだ。協議会によって、地域振興の気運が高まっていたことから、前田さんは長年胸に秘めていた「工芸の郷」構想を、講演など公の場で口にした。「西郷の人々は3つの窯元を見守り、応援し続けてくれている。ちょうど、木工やガラス工芸の作家さんも、工房を開いた直後で、小さな集落に5つも工房があるのは県内でも珍しい。もっと増やして、「工芸の郷」という一つの特色にしてはどうか」と、多くの人から賛同の声がある。



のどかな風景が広がる西郷地区

思いが重なり合い、協議会は前田さんの提案を引き受けた。10年間で10人程度の工芸作家の移住を目標に掲げ、まずは集落の空き家を調査し、移住者に貸し出せる体制を整備。16年9月には、「工芸の郷」構想をさらに推進するため、新たに「一般社団法人西郷工芸の郷あまじやく」を設立。行政の補助金を活用し、制作環境整備にかかる費用、移住後2年間の研修費用を支援するという経済的サポートの充実も図った。そして、翌17年4月、「いなば西郷工芸の郷」が郷開きとなった。

作家同士が交流し刺激し合う場所に

「時間も手間もお金もかかる作家活動では、こうしたサポートは本当に助かる」と前田さん。そして、自然豊かな西郷の環境が、制作にもいい影響を及ぼすはずだと確信する。「ここで力を付けて一人前の工芸家になってほしい。作家同士が交流でき、刺激し合いながら、制作に没頭できる環境をつくっていききたい」。なぜなら自身も開窯した当初は身近に頼れる師、相談できる同志がおらず、孤独の中でもがき苦しんだ経験があるからだ。

活動7年目を迎える今、6窯元4アトリエの全部で10工房までになった。「これからは入郷した若い作家らが中心となり、新しい時代に合った活動を展開していってほしい」と期待を寄せる。さらに「文化の醸成には長い時間が必要。100年先を見据え、続けることが大事」と、前田さんは未来へ思いをはせている。



「ここに来る作家さんたちが、心地よい環境を作っていきたい」と前田さん



はくじ めん とり ぽ
『白磁面取壺』(巾23.9×高さ29.6cm)
写真撮影:斎城卓

白磁とは白色の素地の上に透明な釉をかけ、高温で焼きあげた磁器の総称。やなせ窯の作品は、光によって微かな陰影ができ、さまざまな表情を醸し出す。白磁の可能性をとことん追求したモダンなテイストが高く評価されている。

☎ やなせ窯 ☎ 鳥取市河原町本鹿282
☎ 0858-85-0438
🌐 <http://yanasegama.com/index.html>
※工房訪問可(要事前連絡)

自然から刺激、作品へ投影 | 花輪窯 花井 健太さん



花輪窯の花井健太さんは、郷開きと同時に西郷に移り住み、移住作家第1号となった。福岡県東峰村で小石原焼の福島善三さん(重要無形文化財保持者)に師事し、3年間修行。独立に向けて窯を開く場所を探していた時、前田さんの構想を聞いた師匠から、この地区を紹介された。思いもよらぬ場所だったが、前田さんの作品や人柄を尊敬していたので、「まずは一度行ってみよう」と現地に下見へ。

一番印象的だったのは、地域振興にかける住民意識の高さだったという。「地元で窯元があり、創作活動に理解がある。ここならやっつけられる」と感じた。

恐らく多くの方が「西郷には何も無い」と言うだろう。しかし、花井さんは、「とても刺激的ですよ」と話す。「四季の移ろい、草花の変化を毎日肌で感じられる。花が咲き、実がなり、種が弾け、葉が枯れる。そういう自然の力強さ、美しさを作品に込め、皆さんにお伝えできたら」

彼の感受性は西郷での暮らしにより、ますます研ぎ澄まされているようだ。



移住作家たち



制作も生活も心地よい環境 | ukירוosh. 矢野 志郎さん 竹中 悠記さん

それぞれ全く違う技法のガラス工芸に取り組む矢野志郎さん、竹中悠記さん夫婦は、工芸の郷が開く8年前の2009年からこの地に移り住んでいた。協議会前会長の実家が空き家になっており、縁あって借りられることに。

「ものづくりや移住者に寛容で、『ああ、来んさっただか』と当たり前のように受け入れてくれた」と矢野さん。「子どもの保育園も、空きを待つこともなく早速にも入れて、制作活動を無理なく再開することができました」と、竹中さんも居心地の良さを口にする。

移住当初は、作家同士で話をする機会はなかったという。しかし今は、西郷の工芸作家が一堂に会する「三水会」が月1回あり、イベント計画やお互いの制作活動について意見を交わす。

「工芸の郷の活動は、前田さんの存在がとても大きい。だからといって移住してきた作家が意見を言いつらいということはなく、フラットに発言できるし、皆さんも受けとめてくれる」と竹中さん。風通しのいい関係性が築けているようだ。「これからも変わらずここで制作できたらいいなと思っています」、2人は顔を見合わせて微笑んだ。



西郷工芸の郷 あまんじゃく



毎年秋に開かれる「西郷工芸祭り」。すっかり定着し、常連らでにぎわう★

大反響で定着した「西郷工芸祭り」

「西郷工芸の郷あまんじゃく」は、工芸作家招へい・支援のほか、イベントなどの企画・運営に尽力している。代表理事の北村恭一さんは、「有望な若手作家らが切磋琢磨できる環境をつくることと、西郷を文化の発信地にすることが目標」と瞳を輝かせる。

中でも発足と同年にスタートし、すっかり定着した「西郷工芸祭り」(毎年10月)の反響は大きい。作品の展示・販売をはじめ、ワークショップ、地元農産品の販売などが催されるが、初年度は240人だった来場者数が年を追うごとに伸び、コロナ禍前



「ようやく形になってきました」と話す北村さん

の19年は2日間で2300人以上が訪れたという。工芸の郷の認知度が上がっている証だ。

窯元で器を手作り、給食で育つ郷土愛

このほか、全国的にも珍しい「お茶碗給食」を西郷小学校で行う。2019年から毎年、子どもたちが窯元を訪れ、給付けをしたり名前を彫ったりしてオリジナルの茶碗を作り、週1回、その茶碗で給食を食べるものだ。子どもたちは、自分だけの茶碗をとっても大切に扱っているとのこと。「郷土の文化を知り、本物の形成、モノを大切にすることに誇りそうだ。」

さらに昨年12月には、古い民家を改修した「いなば西郷工芸の郷ギャラリー&カフェokudan」がオープン。ほとんどの作家は自宅で制作を行っており、展示・販売のスペースを備えているところが少ない。作品を直接見て、買ってもらえる拠点ができたことは「ありがたい」と口をそろえる。

カフェでは、作家の器でコーヒーやスイーツを提供しているのも、使心地や手触りを楽しめて、好評だ。「工芸作家が増え、声が大きくなってくれば、日本全国はもちろん、世界へ向けての発信も十分あり得る」と北村さん。少しずつだが着実に、夢へ近づこうとしている。



ギャラリー&カフェokudan

① いなば西郷 工芸の郷
ギャラリー&カフェokudan
② 鳥取市河原町弓河内84-2
☎ 090-7411-3150(営業時間内のみ)
🕒 日・月・水・木曜日の10時~16時
※1~2月は休業

西郷工芸の郷あまんじゃく

① 一般社団法人西郷工芸の郷あまんじゃく
② 鳥取市河原町牛戸15-1(鳥取市立西郷地区公民館内)
☎ 0858-85-0445(西郷地区公民館)
🌐 <https://315amanjakuhp.wixsite.com/315amanjaku>
[Instagram] <https://www.instagram.com/315kougei/>

★写真提供: 西郷工芸の郷あまんじゃく

民家を改修したギャラリーには、それぞれの工房の作品がズラリ

さん さん
三々窯

廣瀬 泰樹



主に西郷谷の土を自ら掘り、陶土を精製。薪窯や灯油窯による焼成を中心に、それぞれの土の風合いを生かした作陶を心がける。釉薬は主に鉄釉、灰色釉などを使用。野趣に富んだ作風は、素朴さの中に独特の味がある。

[email] tahiiroki@gmail.com

[Instagram] <https://www.instagram.com/hirosetaiki/>

※工房訪問可(要事前連絡)

花輪窯

花井 健太



鉄釉を用いた「苔玄釉」という苔のような色合いは、落ち着きがありながら、はっきりと存在感を示す。草木や花、実など自然の中からインスピレーションを得て、その生命力を器にうつし込み自分だけの表現を追求する。

[Web] <https://m.facebook.com/karinkiln/>

[Instagram] https://www.instagram.com/karin_kiln/

※工房訪問不可

工房の作品紹介

★写真提供:各工房

牛ノ戸焼

小林 孝男

小林 遼司



1837年、島根県江津市の石見焼の陶工・小林梅五郎によって開窯。1931年、吉田璋也の指導を受け、国内では最初の新作民藝運動の窯に。黒と緑のシンプルな染め分け、三方掛、梅や菖蒲など、素朴な絵柄が代表作。

[所] 鳥取市河原町牛戸185

[☎] 0858-85-0655

三々窯

小淵 祥子



ろくろで成形、石膏型などで作った白地を土台に絵付けをして仕上げる。カップや皿、茶碗、ふた付きの小瓶や小物入れなどの作品に、花柄や幾何学的な模様が、優しいタッチと色合いで描かれ、心がホッとゆるむよう。

[email] shouko.1105@gmail.com

[Instagram] https://www.instagram.com/shoko_kobuchi/

※工房訪問可(要事前連絡)

とうこうぼういろは
陶工房彩白

岩見 ひとみ



白磁に彩りを添えた作品が特徴。絵付けのほか、泥漿をチューブで盛り付けるイッチン技法、生乾きの素地に型をかぶせ変形させる型打ち技法などで、装飾を施す。草花をモチーフにした繊細な図柄で、女性に人気が高い。

[所] 鳥取市河原町湯谷

[☎] 080-1939-2445

※工房訪問可(要事前連絡)

ukiroosh.

竹中 悠記



繊細な模様と色使い、優美なフォルムが人気の作品。石膏型に模様を彫り込み、色ガラスの粉で絵付けた後、透明なガラスの粒を敷き詰め、石膏型ごと窯で焼く「パート・ド・ヴェール」という技法で作る。

[Web] <https://ukiroosh-glass.wixsite.com/ukiroosh>

[Instagram] <https://www.instagram.com/ukiroosh.yuuki/>

※工房訪問不可

因州・中井窯

坂本 章

坂本 宗之



1945年、初代・坂本俊郎が登り窯を築業。2代目・實男は、吉田璋也の指導により新作民藝に取り組むように。2000年からは世界的工業デザイナー・柳宗理ディレクションの制作をスタート。モダンな掛け分け皿が印象的。

[所] 鳥取市河原町中井243-5 [☎] 0858-85-0239

[Web] <https://www.nakaigama.jp/>

※工房訪問可(要事前連絡)

フクラクラフト

岡田 純平



銀粘土(アートクレイシルバー)、七宝焼きが主な素材。鳥や魚、虫、植物などをモチーフにしたネックレス、ブローチなどのアクセサリ類を制作。精巧な造形の銀細工に七宝の鮮やかさが映える「銀七宝」は心躍る美しさ。

[所] 鳥取市河原町釜口633 [☎] 090-9733-0649

[Web] <https://fukuracraft.com/> [Instagram] <https://www.instagram.com/fukuracraft/>

※工房訪問可(要事前連絡)

ソー
thaw

窪田 恵里花



島根県でレザークラフトを学んだ後、2017年に故郷・西郷に戻って工房を開く。地元で捕獲された鹿の革をなめした後、草木染めを施す。作品は普段使いの小物が中心で、優しい色合いと鹿革特有の柔らかな触感が特徴だ。

[Web] <https://www.thaw1209.com/>

[Instagram] <https://www.instagram.com/thaw1209/>

※工房訪問可(要事前連絡)

ukiroosh.

矢野 志郎



窓などに使われる板ガラスを一枚一枚接着し、削っては磨き、磨いては削るという作業を繰り返す「板ガラス積層」の技法で作品を制作。ガラス層が織り成す複雑な光の反射と屈折が美しく、神秘的な世界観に引き込まれる。

[Web] <https://ukiroosh-glass.wixsite.com/ukiroosh>

[Instagram] <https://www.instagram.com/ukiroosh.shirou/>

※工房訪問不可

工房このか

藤本 かおり



2007年に独立、西郷に工房を開く。木工ろくろで木材を削り、椀や皿、茶筒や小物入れ、木のおもちゃなどを制作。素材の特性を生かしつつ、挽物での成型から仕上げの漆塗・蒔絵まで手がけた作品は、ぬくもりがあふれる。

[所] 鳥取市河原町本鹿271-1

[Instagram] <https://www.instagram.com/conokanocoto/>

ここにこの

Human Life



扉が開け放たれるのを合図に勢いよく飛び立つ鳩たち。「我が家へ」―。この帰巢本能を利用して速さを競う鳩レース。競技歴30余年の三ツ國章さん(68)は「帰ってきてくれた時の喜びは何物にも代え難い」と、少年のように目を輝かせる。

一般社団法人日本伝書鳩協会鳥取支部

三ツ國 Mitsukuni Akira 章

文/井田 裕子 写真/田中 良子

多様な命の宝庫 大山の生きもの

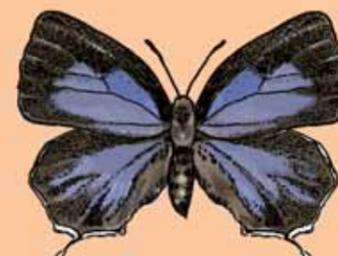


館長の矢田貝さん

中国山地の最高峰、大山(標高1729m)。中でも中腹に広がる西日本最大級のブナ林は、葉や実を食料にする動物、倒木を分解する菌類、その土壌から育つ植物など、多様な命を育んでいる。大山の歴史や生きものの展示施設「大山自然歴史館」の館長・矢田貝繁明さんに聞いた。



VOL.9



ダイセンシジミ



別名はウラムスジジミ。羽の裏面に白い線が入る

幼虫のエサですむ場所が決定

チョウは種別によって、幼虫が食べる植物の種類が違い、成虫はその植物を選んで産卵する。シジミチョウの仲間、多くがブナ科の木の葉や芽を食べるため、大山では、日本産25種のうち22種も確認されている。



ダイセンニシキマイマイ

陸生の貝類で、1930年に山頂で発見され名付けられた。燃え上がる炎をかたどった火焰模様の殻と、軟体背面の黒い筋が特徴。

ダイセンの名が付く「カマシタケ」



ブナ林

世界中でここだけに生育



高さ約30cmまで成長し、先端に丸い穂が垂れ下がる

大山のみに自生する希少な植物。山頂の常に崩壊が進む不安定な場所に生育。1935年に初めて発見されるも、その後70年以上確認されず、絶滅かと思われていたが、2012年に再確認された。

ダイセンアシポソスゲ

ヒメボタル

山頂で天然のイルミネーション

厳しい環境と思われる大山山頂付近で多数のヒメボタルの生息が確認されている。幼虫は陸生で山頂に生息するマイマイ類を食べて成長する。羽が退化しているメスが、山頂までどう移動するかなど謎も多い。



体長は6~9mmとかなり小さい。0.5秒に1度の高速で発光する様は、まるで天然のイルミネーション

カメムシタケ

冬に昆虫の幼虫に寄生し、夏になるとキノコの部分が地上に現れる菌類「冬虫夏草」。生えたキノコには寄生した昆虫の名前が付けられる。



漢方薬として利用される種もある

虫に寄生して成長する菌

問 大山自然歴史館 西伯郡大山町大山43
WEB <http://daisen-museum.jp> ☎ 0859-52-2327

文・イラスト / 雲坂紘巳(くもさか・ひろみ) 納豆が大好きなイラストレーター。1982年生まれ、鳥取県育ち。づるづるした食べ物が好きなことから、屋号は「スタジオづるり」。WEB=<http://dururi.com>

五輪開会式の鳩に感動

1964年、東京オリンピックの開会式。8千羽の鳩たちが国立競技場から一斉に飛び立ち、世界的祭典の開幕に花を添えた。白黒テレビの画面に映った壮大な光景に、当時、小学5年生だった三ツ國さんは一気に心奪われた。「この鳩たち、みんな自分の家に帰るんだ」。この後、さっそく鳩を飼いはじめた。

鳩は、太陽の場所や地球の磁力などから自分の巣の位置を把握し、はるか遠い場所からも帰ってくる高い能力を持つ。また、穏やかな性質で人になつきやすく、古くから人々は遠距離で連絡をやり取りする伝書鳩や、祭典などの晴れの日を彩る演出の一つとして、鳩の能力を生活の中で活用してきた。

子のため、奇跡の生還

鳩レースも、鳩の高い能力を生かした競技だ。複数の鳩を同一地

点から同時に放鳩し、各自の鳩舎までに要した時間を計測して、鳩の飛ぶ速さを競う。日本伝書鳩協会では、全国の協会員が放鳩を協力し合い、定期的にレースを開催している。

帰巢本能があるといっても、途中、オオタカやハヤブサなどの猛禽類に襲われたり、強烈な逆風に力尽きてしまったりして、すべての鳩が確実に自分の巣に帰れるわけではない。距離が延びるにつれて無事に巣まで戻れる可能性は低くなる。700〜900キロメートルの長距離になると参加鳩のうち、帰還する鳩は約40%という過酷なレースとなるそうだ。



2021年春のレースで、満身創痍の状態で見還し、優勝したマリン・ドラゴン号★

帰巢本能生かして速さ競う



そんな厳しい700キロメートルのレースで2021年春、三ツ國さんの育てた鳩が、奇跡の生還を果たす。5月中旬の早朝に秋田市で放たれた鳩(雄、マリン・ドラゴン号)は、向かい風という悪天候の中、右足を骨折する大けがを負いながら命がけで飛び続け、優勝を成し遂げた。三ツ國さんは「翌日の昼ごろ、鳩舎でゴロンと横たわっている姿を見た時、思わず涙が出て『よく頑張った』と抱きしめてあげました」と話す。

鳩は、抱卵からヒナの餌やりまで雌雄で公平に分担する習性を持つ。優勝した雄もレース2週間ほど前にふ化したヒナがおり、鳩舎で待つわが子とパートナーのために「痛みをこらえて懸命に帰ってきたのでしょう」と、三ツ國さんは目を細める。その雄は三ツ國さんの手当てにより回復し、今はレースを引退して、種鳩として次世代に優秀な能力を伝えているという。

再会できた喜びは格別

家族のように愛情を注ぎ、生まれたヒナを丁寧に訓練してレースに出場させる三ツ國さん。広島県で開催された2700羽出場の大規模なレースでも3位に入ると、全国の愛鳩家から一目置かれている。「鳩レースの魅力は、自分が育てた鳩が遠いところから帰ってきてくれること。あの瞬間は、何歳になっても最高」とこりほほ笑む。

しかし、鳩の飼育に興味を持つ人は徐々に少なくなってきたという。三ツ國さんは「協会員も高齢化し、鳩レースが行われなくなる日がいっつかくるかもしれない」と寂し気に語る。だけど、三ツ國さんのような愛鳩家と鳩の深い絆、そして、大事な情報や人々の祝福の心を運んでくれる鳩の優れた帰巢本能の可能性は、後世に伝えていくべきものではないかと、青空を清々しく飛ぶ姿を見て思った。



優秀な鳩の血統をつなぐため、交配も行う三ツ國さん。生まれた鳩を愛情深く育て、レースに出られるよう、少しずつ訓練をする



個体識別のため、選手鳩にはすべて脚環がつけられており、これで飼い主もわかる

みつくに・あきら

鳥取市生まれ。小学校5年生から鳩を飼い始める。学生時代は学業に専念し、社会人になってから鳩の飼育を再開。自宅裏の2階建て鳩舎で、卵を産ませる種鳩50羽を飼育し、毎年、レースに出場させる選手鳩約80羽を育成する。一般社団法人日本伝書鳩協会鳥取支部長。

人との絆を感じる瞬間が魅力

☎ 一般社団法人日本伝書鳩協会
鳥取支部

☎ 0857-59-1965(三ツ國自宅)

鳥取の
うま味

頬がゆるむ
楽しい仕掛け

「つけあな丼」(1200円・税込)はランチ限定。ご飯は大盛りも無料。ランチはこの他、にぎり、特選ちらしなどもあり。夜は、にぎり寿司に刺身、焼き物などのおまかせが人気。

■ 鮭よし丼

所 米子市道笑町4-12-15

☎ 0859-21-5728

営業 11時30分～13時30分

(材料がなくなり次第閉店)

18時～22時

休 日曜、祝日

■ 海の幸あふれる丼 ■



大通りから少し住宅街に入った「鮭よし丼」。ランチ客の9割が頼むというのが「つけあな丼」だ。穴子とマグロの主役級が共に並ぶ丼は、華やかな彩り、楽しい仕掛けで心が弾む。

煮穴子は直前にあぶって香ばしく、ふんわり甘い。つやつやのマグロは、食感と色を生かすため、たれをさっと絡めた。うずらの卵がまるやかさを添え、大葉とネギがアクセントを加える。食べ進めるとシャリから、エビ、サーモン、タコ、イカなど6種類の具が次々と顔を出し、多様な食感が口の中で踊り、思わず頬がゆるむ。

このアイデアは、店主の岩村嘉樹さんが、東京で修行していた当時の店で提供されていたもの。「自分が初めて食べた時のうれしさと驚きをお客さまにも味わって欲しい」と、店を始めた11年前からメニューに載せている。

積極的な宣伝はしなかったため、オープン初日のランチタイムに訪れた客は2人のみ。ところが、その確かな味が口コミでどんどん広がり、数年前には、「ミシュランガイド」にも掲載された。「食べる楽しさを伝えたい」という、岩村さんの熱意が、多くの人を引きつけている。

文/松村 亜紀子 写真/佐野 明美

海と共に続く祈りの風景

開運
おかげ
詣で

因幡と伯耆の神社



日本海に向かって立つ筥津のリュウグンさんと鳥居
＝写真提供：菅野雄一



リュウグンさんの正面

筥津のリュウグンさん 琴浦町

興味深い神事も伝わる。毎年11月に「竜宮祭」が行われ、神職による祝詞奏上のもとミカン12個が海に投げ入れられるのだ。ミカンを使う神事は、筥津を東端に島根県大田市まで東西150キロの海沿いに見られ、今でも60を超える地域に残るといふ。さらに筥津では、同時に慰霊祭も営まれる。1927年、連合艦隊の

民の信仰も厚い。興味深い神事も伝わる。毎年11月に「竜宮祭」が行われ、神職による祝詞奏上のもとミカン12個が海に投げ入れられるのだ。ミカンを使う神事は、筥津を東端に島根県大田市まで東西150キロの海沿いに見られ、今でも60を超える地域に残るといふ。さらに筥津では、同時に慰霊祭も営まれる。1927年、連合艦隊の



海の安全を祈る「竜宮祭」と将兵の御霊をなぐさめる「慰霊祭」(2021年11月)



12個のミカンを海に投げ入れる参加者たち

海上安全、
漁業繁栄

ご利益

※美保開沖事件＝旧日本海軍が島根県美保開沖で夜間演習中に起こした多重衝突事故。沈没により119人の犠牲者が出た。

文・写真/角田 治

筥津地域には、付近に同じような祠が5つほどあるが、どの地図を探しても載っていない。そしてリュウグンさんが、いつごろから信仰され始めたかは不明だが、その祈りは海の暮らしと共に今なお続いている。

演習中に筥津の沖合で起こった衝突事故(※美保開沖事件)で亡くなった将兵たちのための祭礼で、犠牲者の魂をなぐさめるとともに、神様となって海の安全を守って欲しいと祈るのだ。そんなリュウグンさんを毎日拝み続ける人がいる。海を仕事場とする人たちが。海辺に立つ祠を船の上から拝み、漁場へと向かう。「豊漁であるように、無事に帰港できるように」と。

筥津地域には、付近に同じような祠が5つほどあるが、どの地図を探しても載っていない。そしてリュウグンさんが、いつごろから信仰され始めたかは不明だが、その祈りは海の暮らしと共に今なお続いている。

プロフィール

つのだ・おさむ グラフィックデザイナー。神仏探訪家。『山陰の神々 古社を訪ねて』(山陰の神々刊行会)など、神社にまつわる書籍の取材・執筆・撮影。

神社情報

あしはら けいけいまっしや
社号:葦原神社境外末社 所 東伯郡琴浦町筥津
☎0858-55-2156(伯耆福荷神社)

豊かな自然に囲まれ、林業が盛んな智頭町ちづちょうで
山に親しみながら、山を学ぶ「塾」が人気を集めている。
木を伐ることきがなぜ森林を守ることにつながるのか。
森林の現状を知ることが私たちに何をもたらすのか。
塾長は、持続可能な未来に向けて、今日も伝え続ける。

未来へ

つなぎたい

豊かな恵み

「持続可能な森林」を目指す「智頭の山人塾」

文／倉恒 弘美 写真／青木 幸太

まずは関心を持ってもらう

智頭町の自然をフィールドに、一年を通じて林業の基礎や植物の知識などに親しむ講座を企画・提供する「智頭の山人塾（以下、山人塾）」が、2〜3回開かれる講座のラインナップは、実に多彩だ。野山を歩いている樹木の観察会、山菜やキノコ採集、まき割り体験といった野外活動もあれば、安全講習や森林の生態学、地形学、山村の歴史や生活文化などの座学もある。参加者の顔ぶれは、林業を学びたい若者、里山の暮らしに興味がある人、親子連れや植物、自然が好きな人などさまざま。座学はオンラインにも対応し、インターネットを通じて県外からの参加もある。

塾長の山本福壽（ふくじゆ）さんは、鳥取大学農学部教授、同大「乾燥地研究センター」の特任教授を歴任。専門は樹木生理学だ。2016年の春に、農学部教授としての退官を機に、「専門である森林や林業の知識・情報地域社会に還元したい」と、鳥取市内から智頭町に移住。任意団体「山人塾」を設立し、同町の地方創生事業としてスタートした山人塾の運営を引き受けた。

スタッフは、山本さんほか、森林セラピーガイド、木地師、林業・農業従事者など約15人。講師陣は山本さんや、山本さんの妻で樹木医の真弓さんほか、県内外の各分

野の専門家がそろう。山本さんは「各講座は一見バラバラに見えるが、最終的に林業や森林の維持、地域の生活文化に集約されるように企画しています。森林を健全に維持するために、多くの人に、楽しみながら山を知ってもらい、関心を持ってほしい」と、多方面からアプローチする意図を語る。



里山をゆっくり歩きながら、樹木や植物の特徴を参加者に説明する山本さん。胃腸薬の原料となっている植物の「味見」体験も



トゲに毒があり、触るとかぶれる植物。山ではそこかしこに生えている



遅咲きの八重桜に出会い、風景がばつと華やかに。沸く参加者たち

山の管理は持続的に

智頭町は総面積の9割以上を山林が占め、江戸時代から続く林業の町だ。良質な木材として知られる「智頭杉」は町の経済を支え、人々は山と対話しながら暮らしを成り立たせてきた。

智頭の山地は、林業が始まる以前、採草地や薪炭林として利用されてきたという。採草地では農業に欠かせない牛馬の飼料や田畑の肥料、屋根葺きの材料となる草を刈り、草ともにも伸びる木は燃料として使われ、

生活の資源となっていた。「およそ20年ごとに木が伐られ、森林は若返っていた」（山本さん）

江戸時代になると、森林資源の不足や洪水の頻発が問題となる。そこで鳥取藩主導のもと、地元の有力量の協力を得ながら、植林をする林業が始まり、山地の生態系が守られてきた。閉鎖的な森林よりも、実はこのように人が介入した方が植物や動物にとって豊かな環境であり、多様な生態系が維持されるという。



野外実習体験で枝打ち指導のため木にロープをくりつける山本さん★

★写真提供=智頭の山人塾

2022年度

智頭の山人塾
講座スケジュール



■ 山カフェ

- 2022年 9/11 [日] 「山ことば&林業の冬仕事を考える」
場所/ちえの森ちづ図書館・オンライン(Zoom)
ナビゲーター/山本 福壽(智頭の山人塾/杣塾 塾長)
- 2023年 3/4 [土] 「活動報告・今後の講座について」
場所/ちえの森ちづ図書館・オンライン(Zoom)
ナビゲーター/山本 福壽(智頭の山人塾/杣塾 塾長)

■ 森林と樹木の
サイエンスシリーズ講座 (オンライン)

- 2022年 9/15 [木] 第2回「樹木医の仕事とアーバンフォレストの緑化活動」
講師/有賀 一郎 (サンコーコンサルタント(株)技師長、
かながわ樹木医会前会長・現顧問、
街路樹診断協会理事、樹木医6期生)
- 10/20 [木] 第3回「高CO₂環境への落葉樹の応答
—実験的アプローチから—」
講師/小池 孝良(北海道大学大学院農学研究院・研究員)
- 11/17 [木] 第4回「乾燥地の樹木とその利用」
講師/山中 典和(鳥取大学乾燥地研究センター)
- 2023年 1/19 [木] 第5回「シカ害の問題と防災」
講師/藤木 大介(兵庫県立大学准教授)
- 2/16 [木] 第6回「木材の材質とは何か？」
講師/山本 福壽(智頭の山人塾/杣塾 塾長)

■ 講義

- 2022年 9/24 [土] 「歴史と経済の視点からみる日本の森林」
場所/ちえの森ちづ図書館・オンライン(Zoom)
講師/斎藤 修(一橋大学名誉教授)
- 12/10 [土] 「樹育・木育」(ワークショップ)
場所/ちえの森ちづ図書館
講師/山本 福壽(智頭の山人塾/杣塾 塾長)
藤本 かおり(工房このか)
- 2023年 1/28 [土] 「智頭町の地形・地質」
場所/ちえの森ちづ図書館・オンライン(Zoom)
講師/小玉 芳敬(鳥取大学農学部教授・鳥取大学附属中学校長)



デイキャンプ体験では竹を切って手作りの器や箸づくりに挑戦★

■ 野外実習

- 2022年 10/1 [土] 「薪割り体験
～ちえの森ちづ図書館の薪づくり～」
場所/ちえの森ちづ図書館
講師/山本 福壽(智頭の山人塾/杣塾 塾長)
國岡 将平(智頭ノ森ノ学ビ舎)
- 10/29 [土] 「牛島先生と歩くキノコの世界」
場所/智頭町の自然
講師/牛島 秀爾
(一財)日本きのこセンター菌茸研究所 主任研究員)
- 2023年 2/11 [土] 「冬芽観察・スノーシュー体験」
場所/智頭町の自然
講師/山本 福壽(智頭の山人塾/杣塾 塾長)
- 3/11 [土] 「石谷家住宅の建築」
場所/石谷家住宅
講師/山本 福壽(智頭の山人塾/杣塾 塾長)
山本 博崇(智頭町 観光ガイド)

戦後、国の施策によって針葉樹が増大した森林。しかし、そのうち石油燃料や輸入木材の台頭などによって、林業者の廃業が相次ぎ、山が管理されなくなり、河川の氾濫などにつながる。

山本さんは「人が山の自然に一度でも介入したら、介入し続けなければ山は荒れてしまう。木を伐って利用しながら、環境をコントロールしていくことが森林を健全に維持する手段」と林業の大切さを訴える。

また、森林で生成された栄養分は

土壌から染み出し、川や海を豊かにする。「そのためには、多様な樹木が欠かせない。特に栄養分を蓄えて土に戻す広葉樹がもっと必要」と強調。森林・川・海すべてが、大きな循環の中にある。

さらに、近年では獣害などの問題が、全国的にも深刻化している。どうにか間伐を行って、新たな苗を植えても、増えすぎた鹿が食べ尽くしてしまい、木が育たない。環境の改善は、すでに「待ったなし」だ。



「森林に関心を持ってもらい、次の世代につなぎたい」と活動を続ける山本さん

智頭町内にある竈山の散策講座。歩きやすい登山道と頂上からの絶景がおすすめの講座★



全国の林業を
応援したい

このように山人塾では、イベントや講義を通じて森林の歴史や現状を伝え、「今、何をすべきか」を参加者に問いながら、「コツコツと活動を続けてきた。初回から参加している受講者は「もともと山が好きだったが、活動を通じて自分でも森のことを勉強するようになった。他の参加者も、福壽先生のお話を聞いたり、自然に触れたりすることで、守りたい、残したいと思う人は多い」と意識の変化を話してくれた。特に最近では環境問題への関心の高まりから、若い世代の参加者も多くなった。



野外実習で焚き火の体験をする親子連れ★



雪が降ればスノーシューを楽しみながら冬の樹木を観察する★

★写真提供=智頭の山人塾

〒 0858-71-0004
☎ 0858-71-0004
🌐 <https://yamahito-juku.com/>



牧場経営(伯耆町)

竹川 奈緒さん 東京都出身

- ◎家族構成/一人暮らし
- ◎移住前の住まい/京都府
- ◎移住時期/2018年4月
- ◎現在の仕事/ヤギの飼育・繁殖、ヤギ肉販売、ヤギ乳加工販売、ヤギ預かりなど

株式会社やぎのいえ

〒島根県安来市清瀬町271

☎0859-57-7320

🌐 <https://www.facebook.com/yaginoie2018/>

「早朝に起床して餌やり、清掃、爪切りやブラッシングのほか、壊れた柵の修繕なども。毎日、あっという間に1日が終わります」と竹川さん

ヤギに魅せられ魅力を発信
たくましく、夢をカタチに



若干23歳で縁もゆかりもない鳥取県に、3頭のヤギと共にやってきた竹川奈緒さん。暮らし始めて丸4年、大切に育てて今や140頭、大所帯の主だ。大山の麓から、今日もヤギの魅力を発信する。

From Kyoto



輝くIJUターン者たち

文/日高むつみ 写真/萱野雄一

人間に寄り添える動物

大山の中腹、標高380㍎に位置する伯耆町添谷地区。隠れ里のような集落の中ほどの小径を進むと竹ヤブの向こうから、「メエエ〜」とのんびりしたヤギの声が。

迎えてくれたのは、健康的な笑顔が印象的な竹川奈緒さん。2018年、移住と同時に立ち上げたヤギ牧場を徐々に拡大、22年3月には株式会社「やぎのいえ」を設立した。飼育や繁殖のほか、加工品、肉の販売など行う。

東京出身の竹川さんは、動物好きな子どもだった。特に爬虫類は別格。トカゲやヘビを飼い、高校時代のバ



ヤギのほかヒツジ、ミニブタ、ポニーにロバ、ニワトリ、イヌ、ネコ、ウサギなど多種類の動物と一緒に暮らす。多くは、竹川さんが飼い主のいない保護動物を引き取ったもの

「イト代はエサ代に消えるほど。その後、動物飼育の専門学校で初めてヤギに出合う。「ヤギって思ったより頭がいい。教えたからお手もできます。そんな愛らしさもありつつ、ミルクや肉を得ることもできる。家畜としてもペットとしても、人間に一番寄り添える動物なんじゃないかと」

卒業後は、爬虫類に強い動物園に就職するが、そこにもヤギがいて世話を任されることに。「その時期に京都のヤギ牧場の友人から声がかかり、これはもう運命かなって」。京都で1年ほど経験を積み、添谷への移住と独立を決意した。



住民の方が設計から建築までサポートしてくれた2棟のヤギ舎

「ミルクに変化があり、以前よりしっかりした甘味が出た。エサとして地元企業さんからいただく酒粕やおからも、おいしさに拍車をかけているのかも」

地域からの応援は、移住当初からなくてはならないものだった。「ウエルカムな雰囲気、どれだけ助けられたか。ヤギ舎も設計図から完成まで、ほぼ手伝ってくださって。住まいも『壊すつもりだった。好きにしていよ』と。野菜や米のお裾分けも日常茶飯事です」と感謝を口にする。

昨年、さらに拠点を増やしたが、添谷の牧場は今後も続けて運営する。「ヤギに触れ合い、ミルクを飲んだり、肉を食べたりを通じ、命をいただく重みやありがたさを伝えていきたい。ここは私の原点。譲れない場所です」。来春には、新たな拠点にヤギのミルクを軸にしたカフェも併設する予定。竹川さんは、たくましく、着々と夢を実現させている。

地域住民の絶大な支援

「集落の支援員さんと知り合って遊びに行くうち、空き家も土地もあると聞いて。何より水のおいしさが決め手でした」。良質な水はヤギの飼育環境にとって、貴重だという。

【IJUターンの相談窓口】

公益財団法人 ふるさと鳥取県定住機構

〒鳥取市扇町115-1

鳥取駅前第一生命ビル1F

☎0857-24-4740

🌐 <https://furusato.tori-info.co.jp/>

IJUターン就職に関する相談

☎0120-307-238

(8時30分~17時15分※土日・祝日除く)

移住に関する相談

☎0120-841-558

とっとり移住定住ポータルサイト

🌐 <https://furusato.tori-info.co.jp/iju/>

表紙絵に心ひかれました。巻頭特集の「ご当地FOOD図鑑」は鳥取の特産品をふんだんに使った魅力的な食べ物ばかり。また「Camera Eye」の風景写真は夏らしく色鮮やか。ページを開いた瞬間に元気が出ました。

(東京都北区 高橋 祐美)

鳥取県のご当地FOODがこんなにも！こも豆腐も、いぎすも知らず、「ばばちゃん鍋」は、聞いたことがある程度。県外の友人に、「鳥取はカニだけじゃないんだよ」と案内します。

(鳥取県米子市 寺坂 ゆぎ)

「ご当地FOOD」は、鳥取の山の幸、海の幸を、現在のトレンドに合わせておいしく加工し、地域消費に加えて地域外展開も。地域振興の手本だと思います。

(東京都豊島区 鈴木 健一)

「この人」の稲賀すみれさんの電子顕微鏡の世界。子どもたちが児童文化センターで直接触れられるなんて、さぞワクワクしながら、観察していることでしょう。

(神奈川県川崎市 本生 拓郎)

東京でNOWが届く日を毎回、楽しみにしています。今号には以前、南部町でのワークショップの際に作って食べた「スタミナ納豆」が紹介されており、懐かしく目が釘付けに。鳥取を思い出しながら作って家族で味わいたいと思います。

(東京都杉並区 松本 茜)

あるきっかけで『とっとりNOW』と出会い、これが無料？と驚きました。クオリティの高さ、掲載記事や写真にしても、ひとつひとつ作り手(編集)の情熱を感じました。素敵な情報誌！未長く発行が続くよう応援します。

(鳥取県米子市 岩村 真由子)

珍しい特産品や美しい風景などの紹介、大変楽しく興味深かったです。今後も素敵な記事の掲載を期待します。

(東京都大田区 天明 賢昭)

■ 応募方法

下記の項目を記入し、ハガキ、電子メールまたはWEBの専用応募フォームでご応募ください。

- ① 希望の商品記号または商品名
- ② 掲載記事への意見・感想
- ③ 応募用クイズの答え
- ④ 住所・氏名・年齢・電話番号

※②の感想が次号の「voice」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。

● 応募用クイズ ●

Q 冬に幼虫に寄生して、夏にその体からキノコが姿を現す菌類の総称は何？空いている□に文字を記入してください。



134号のクイズの答えは「タナカゲンゲ」

■ 応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とっとりNOW読者プレゼント」係
メールアドレス : now@kouhouren.jp

応募バッチ
2022.
9/30
消印有効

A



鳥取ブランケーキ 【5名】

(タテ24cmヨコ5.9cm高さ4.5cm)

創業は1868年、老舗和菓子店が作るブランデーケーキ。ふんわり軽めの生地、ほんのりとブランデーが香る。松葉がに、二十世紀梨、民芸の器などが散りばめられた箱も人気。

問 有限会社亀甲や

☎ 0857-23-7021

クラフトジンジャーシロップ
《みんなエール》(315ml) 【3名】

鳥取市気高町で伝統的に作る「日光生姜」を使ったシロップ。生姜の免疫力効果を高める複数のスパイスも加えた。炭酸で割ってジンジャーエールに、またアルコールで割っても美味。

問 COCCARACAFE(コッカラカフェ)

☎ 080-8237-9209

B



C



寄木細工の箸置き 【3名】

(2個セット)

「捨てない」をコンセプトにする工房で、サクラ、ヒノキ、ブナ、クリ…など、さまざまな端材で作られた寄木細工の箸置き。それぞれの木の持つ風合いがコラボしてしゃれた味を醸す。

問 白谷工房

☎ 0859-83-0180

Editor's note

□ ■ 編集後記 ■ □

未来は誰にも見えない。見えないから、想像する。その想像を膨らませ、目標に変えて、歩む人たちがいる。▼人間国宝でありながら、地域のために精力的に動く前田さん(4頁)、手を替え品を替え、環境改善をソフトに伝え続ける山本さん(18頁)。漆工芸の浅井さん(2頁)も、目線の先にあるのは何百年先の後世だ。▼それぞれ種類は違うが根っこは同じ。*誰かのための未来の

景色、を描いている。ここに至るまでには、あったであろう迷いや不安を克服し、見えてきた道なのだろう。▼感動し、圧倒され、そして穴があったら入りたい。これまで我が身のことだけで精一杯、感いまくりの「不惑」は光の速さで過ぎゆき、すでに「天命を知る」歳だ。そろそろ、「やるべき道」にきちんと向き合うべきかと、空を見上げてみる。すると「あのねえ、精進が足りないから無理」…あきれた孔子のため息が。そう、天命は容易に舞い降りるはずがない。(泣) 【Hi】

〈企画・編集・発行〉鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

〈制作〉株式会社セイデザイン
〒680-0841 鳥取市吉方温泉3-802 TEL.0857-22-1122

☎ 0857-26-7086

☎ 0857-29-6621

『とっとりNOW』はWEBでも見られます。

WEB限定のコラム「さっけーのTottori推しランチ」
「すべての道は鳥取に通ず」「菌活で広がるきのこの世界」を連載中!

